

地域支援部だより

宮城県立石巻支援学校

令和5年2月15日発行



居住地校学習「間接交流」

・・・互いの姿が見える交流ができました！



今年度の居住地校学習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、間接的な交流と
なって3年目を迎えました。小・中学部のたくさんの児童生徒が、居住地にある学校の子供たちと交流しました。今年度は、本校と受入校の児童生徒が、“やり取り”を通じて、より互いの存在が感じられる交流となるよう、自己紹介カードの交換や、手紙や作品、ビデオレターをやり取りする交流、オンライン交流などに取り組みました。間接交流であっても“やり取り”をすることで、居住地校の友達との関わりに喜びを感じることができました。受入校にとっても、同じ居住地に住む本校の児童生徒について知り、関心を持って理解してもらう良い機会になったようです。保護者の皆様には御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。

次年度は、御家庭の希望と、受入校や感染症の状況によって、実施できる体制が整えば、直接交流も選択できるようにしていけたらと考えています。どのような交流になっても、地域の子供たちとの関わりが継続でき、交流の実感が持てる取組になるよう更に工夫したいと思えます。

居住地校学習は、共に学び共に育つ共生社会を作っていくために、とても大切な活動です。子供たち

が「**地域の中で、みんなと一緒に**」生活する、過ごしやすい社会にしていくため、地域とのつながりをこれからも持ち続けていただければと思います。

小学部から中学部2年生のお子さんには、個別面談後に、次年度に向けて希望調査を配布します。継続して交流することで、関わりがより深まるようです。また、今年度は実施しなかったお子さんも、次年度は是非交流してみたいと思います。なお、御不明なことや不安なことなどありましたら、担任を通じて御相談ください。



中学部棟1階の
居住地校学習紹介コーナー

「間接交流」で、こんな良かったことがありました！



～担任の声～

<小学部>

- 😊 受入校の児童が話し合ったり工夫したりして、本校の児童が喜ぶものを準備してくれて有り難かったです。受け取ったメッセージや作品は、学校でも家庭でも楽しむことができて良かったです。
- 😊 ビデオレターで受入校の友達の声を聞くと、児童は、はっとしたように目をぱちくりして、じっと耳を傾けていました。良い経験になったようです。
- 😊 受入校へビデオレターを送りました。受入校の児童が熱心に見てくれたそうで、「お手紙を書きたい!」という声上がり、一人一人の児童からビデオレターの感想などを書いた手紙が届きました。
- 😊 受入校とオンライン交流をしました。以前の直接交流で会ったことのある友達が多かったので、互いの顔が見えて、楽しそうに関わる姿が見られました。

<中学部>

- 😊 受入校の先生が熱心で、手紙を届けるタイミングに合わせて、生徒が書いたメッセージを準備してくれていました。相互にやり取りしようという気持ちを感じられてうれしかったです。
- 😊 受入校の自己紹介カードで、小学校まで一緒に過ごした友達の顔を見て、「あ!○○君だ!」とうれしそうにしていました。受入校の先生に作品を渡した際には、「すてきですね!」と喜んでいただきました。

- 😊 オンライン交流で、画面を通して互いの姿が見えたことで関心が高まり、自分たちの発表（ダンス、太鼓）を意欲的に取り組みました。受入校の友達のハンドベル演奏にも、興味をもって聴き入っていました。
- 😊 オンライン交流の最後に、受入校の先生が対面の場を設けてくれ、保育園で一緒だった友達と久しぶりに会うことができました。互いにうれしそうでした。本校生徒は、その友達の顔と名前を覚えていて、名前を呼び、笑顔で喜んでいた。うれしいサプライズでした。

～受入校の先生方の声～

- 😊 作品を届けていただいてから、〇〇さんや△△さんのことを気に掛ける姿が児童に見られました。手紙を出した後も「もっとプレゼントしたい!」と言って、折り紙で手裏剣を作りためている児童もいます。そんな様子を見ていると、1回ずつのやり取りだけではもったいないと感じました。
- 😊 交流が限られた中で、互いの作品を交換し掲示することで、常に互いの存在を意識できると思えました。児童は交流を楽しみにしており、意欲的でした。自分たちの学校を紹介したくてたまらなかったようです。「どんな子なんだろう?」「本当は会いたい。」と話していました。
- 😊 コロナ禍以前に直接交流をしたことのある児童にとっては、間接交流であっても久しぶりの対面となり、特に卒業を目前に控えた6年生が、互いの成長した様子を見られてうれしそうでした。
- 😊 ビデオレターで、支援学校の友達の活動や学習の様子を見て、「頑張っているね!」「この活動、一緒にやってみたい!」などの声があがりました。
- 😊 初めての交流でしたが、ビデオレターを互いに見合ったことで関心を持ち、「会ってみたい。」という思いが深まっていました。「いつか会って一緒に遊びたい。」「自分たちの学校のことを教えたい。」「自分の好きなことも教えたい。」などと、主体的に関わろうとする姿が見られ、手紙も楽しそうに書きました。
- 😊 オンライン交流でしたが、支援学校の様子を知ることができたので、生徒達にとって良い機会になりました。支援学校の生徒が太鼓を演奏する姿を真剣に見て、頑張る姿に驚いたり感動したりしていました。

令和4年度保護者対象研修会

「マカトン法研修会」&開放講座「ペアレント・プログラム」

10月に、保護者対象の「マカトン法研修会」を実施しました。昨年度は教職員向けに行いましたが、今年度は保護者の方からの御要望もあり、保護者の方向けの研修会を企画しました。講師は、マカトン法に詳しい本校中学部教員の門馬広大先生にお願いしました。マカトン法で用いられるマカトンサインは、言葉やコミュニケーションに困難さがある子供のために開発され、思いの表出を促すために用いられているものです。本校でも、支援の一つとして学校生活の中で話し言葉とともに提示しています。参加された方からは「学校でマカトン法を取り入れているようなので、家でも取り入れて共有していくことで、本人が日常生活をスムーズに送れるようになって感じました。」等のような感想がありました。



また、11月には、コロナ禍以前に毎年開催してきた開放講座「ペアレント・プログラム」を実施することができました。石巻市かもめ学園の発達障害者地域支援マネージャー安藤奈緒也さんをお招きし、「ペアレント・プログラムの考え方と実際」という演題で、その概要や、よい行動をほめる方法などについて、実践を交えながら分かりやすくお話いただきました。普段できていることや、完全でなくても少しでもやろうとしている行動に着目し、子供が喜ぶ方法で「望ましい行動の直後にほめる」「具体的に伝えてほめる」という“ほめ方のコツ”を教えてくださいました。

地域支援部では、就学や学習、生活上で困っていることなど様々な相談に応じています。校内の支援室に担当の職員（地域支援コーディネーター）がおりますので、保護者の方も相談したいことがありましたら、どうぞ身近な相談者としてお話しください。一緒に困っていること、不安なこと、対応の仕方などを考えるお手伝いをさせていただきます。担当：地域支援コーディネーター 須田幸子 及川美和